

# 第5学年 国語科学習指導案

指導者

## 1. 主張

自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために、根拠となる文、言葉を明確にして発表しようとする児童を育てたい。そのために、一人調べをして自分なりの考え、根拠をしっかりとせた上で、友達と意見の交流をさせる。

## 2. 題材名 『大造じいさんとがん』( 椋 鳩十 作)

## 3. 題材について

### (1) 題材観

本単元は、第5学年及び第6学年の「C 読むこと」の内容イ・ウを受けて指導するものである。

#### 第5学年及び第6学年の目標

(3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

#### C読むこと

イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

本教材の『大造じいさんとがん』は、猟師の大造じいさんと、がんの頭領である残雪との間に繰り広げられる激しい戦い(知恵比べ)を通して、大造じいさんの残雪に対する心情は次第に変化していく様子が、美しい情景描写とともに描かれている。

残雪を「たかが鳥のこと」と考えていた大造じいさんであったが、残雪の知恵や頭領らしい勇敢な行動に触れることで、残雪を「たかが鳥」ではなく、「がんの英雄」、「よきライバル」として認めていった。また、仲間を思う残雪の心や勇敢に仲間を助けようとする行動など、子どもが自分と残雪とを比べ、生活を振り返ることのできる作品である。

物語は大きく4つの場面から成り立っている。

第一の場面(1年目の冬)は、「今年こそは」と、たにしを付けたうなぎつりばりをたたみ糸で結びつけた方法(うなぎつりばり作戦)で、1羽のがんを生け捕りにするが、残雪の指導でそれ以外のがんを捕まえることはできず、「あの小さい頭に、たいしたちえをもっているものだ。」と感心する大造じいさんが描かれている。

第二の場面(2年目の冬)は、「今年こそは、目にもの見せてくれるぞ。」とたなしをばらまき(たにしばらまき作戦)、自ら作った小屋に隠れ待ち伏せをしたが、またしても残雪のためにしてやられ、「ううん。」とうなる大造じいさんが描かれている。

第三の場面(3年目の冬)は、「今年こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」と、おとりのがんを使う方法(おとり作戦)を試みるが、とつぜんはやぶさが登場する。はやぶさは大造じいさんのがんを狙ったが、残雪が体をはって大造じいさんのがんを救った。戦いのすえ

体に傷を負い、ぐったりとした残雪だったが、かけつけた大造じいさんに、鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度を見せた。大造じいさんは強く心を打たれ、ただの鳥に対しているような気がしなかった。

第四の場面（4年目の春）は、大造じいさんに助けられた残雪は空へ元気に飛び立っていった。大造じいさんは、「がんの英ゆう」「おまえみたいなえらぶつ」「ひきょうなやり方でやっつけたかないぞ」「また堂々と戦おうじゃないか」と晴れ晴れとした顔つきで見守った。

また、この作品では、「青く澄んだ空」「東の空が真っ赤に燃えて」など、大造じいさんの心情が美しい情景描写として描かれている。

以上のことから、登場人物の心情の変化を考えながら、児童が自らを振り返り、どう生きるかを考えるのに適した題材であると考ええる。

(2) 児童の実態（ 名）

～省略～

実態調査（ 月 日実施）

質問	はい（人）	いいえ（人）
1. 話すことが好き。 （1）普段の生活		
（2）授業		
2. 1（2）の理由を書きましょう。		
3. 発表の時に気をつけていることは何ですか。（複数回答）		
4. 音読は好きですか。		
5. 物語を読むことは好きですか。		
6. 授業中、友達の話の間こうとしていますか。		
7. 話を聞く時に気をつけていることは何ですか。（複数回答）		
8. 自分の考えを文章に表わすことは好きですか。		

### (3) 指導観

#### 研究仮説との関連について

ひとりひとりの考えを持たせる場を設定し、表現活動の工夫をしていけば、伝え合う力を育てることができるであろう。

#### <期待する子ども像>

相手の意図を理解しながら聞き、自分の考えを深め、建設的に話し合うことができる子

#### ひとりひとりが考えをもてる場の設定

##### ①ワークシートを使用した一人読みの時間の設定

児童は本文が書かれたワークシートを使用し、そこへ自分が感じたことを書き込んでいく。どの言葉から自分が感想を持ったのかが分かるように、サイドラインを引かせる。根拠となる言葉を明確にさせることで、一つ一つの言葉を大切にしていけることができるであろう。

##### ②授業の足跡の掲示

物語文の心情理解では、前時までにおさえたことが本時に関わってくることが多い。そこで、前時までの学習で取り上げた本分中の言葉やそれに伴う児童の意見を掲示することで、児童がいつでもふり返ることができるようにする。

#### 表現活動の工夫

##### ①ペアでの話し合い

児童が発表できない理由には、発表内容、発表の仕方への不安がある。そこで、この不安を少しでも解消し、「この考えでも良いのだ。」「この考えには友達が共感してくれた。」と少しでも自信が持てるようにペアでの話し合いを取り入れる。この話し合いでは、めあてに迫る考えを根拠となる文、言葉とともに発表させるようにさせたい。また、その話し合いの中でのつづやきを教師が認めることで、自信へとつなげていきたい。

#### 4. 指導目標

##### 【関心・意欲・態度】

- ・ 大造じいさんと残雪との関わり合いに関心をもち、大造じいさんの心情の変化を読み取ろうとする。

##### 【話すこと・聞くこと】

- ・ 考えた自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。

##### 【読むこと】

- ・ 大造じいさんの残雪に対する心情の変化や場面についての描写など、すぐれた叙述を味わいながら読むことができる。

##### 【言語事項】

- ・ 表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣をつけることができる。

5. 全体指導計画（9時間扱い）

次	時	主なねらい	活動と内容	教師の配慮事項	評価の観点
第一次	1	学習の見通しをもつことができる。 全文を読み、初発の感想をもつことができる。	・作品の読み聞かせを聞き、感想を書く。	・感想の持てない児童には、焦点を絞り、大造じいさんについてどのように思ったのかと、一番印象に残った場面はどこかを書かせるようにする。	※大造じいさんと残雪の戦いに関心をもって、初発の感想を書けたか。【関心・意欲・態度】
	2	場面構成について考えることができる。 ・3つの作戦をとらえることができる。 ・難語句について国語辞典を使って調べることができる。	物語の設定について話し合い、時・場・人物の確認をする。 作戦に目を向け、話を分ける。	・作戦を見つけやすくするために、場面ごとに区切って考えさせる。 ・国語辞典の使い方を忘れていた児童には、五十音順に載っていることを教える。	※3つの作戦、登場人物について読み取ることができたか。【読むこと】 ※難語句について辞書を使って調べることができたか。【言語事項】
第二次	3	第一場面のうなぎつりばり作戦で一羽のがんと捕らえた時の大造じいさんの気持ちを読み取ることができる。	一場面の前半を一人読みし、がんと捕らえた時の大造じいさんの気持ちを考え、発表する。	・書き込みができない児童には、具体的な言葉を示し、そこからどのように思ったかを書けるようにする。	※大造じいさんの気持ちや様子が表れているところに気づけ、話し合うことができたか。【読むこと】 【話すこと・聞くこと】
	4	二度目のうなぎつりばり作戦がうまくいかなかった時の大造じいさんを読み取ることができる。	「ううむ！」と感嘆の声をもたらした大造じいさんの気持ちを考え、発表する。	・「残雪が・・・指導・・・」に着目させ、残雪の知恵に気づかせる。	※大造じいさんが「ううむ。」ともらした時の気持ちを想像し、話し合うことができたか。【読むこと】 【話すこと・聞くこと】
	5	第二場面のたにしばらまき作戦に対する意気込みと残雪に対する心情の変化を読み取ることができる。	二場面を一人読みし、「ううん。」とうなってしまう大造じいさんの気持ちを考え、発表する。	・「ううむ。」と「ううん。」の言葉の違いに目を向けさせる。	※大造じいさんが「ううん。」ともらした時の気持ちを想像し、話し合うことができたか。【読むこと】 【話すこと・聞くこと】

	6	第三場面のおとり作戦に対する期待感を読み取ることができる。	三場面を一人読みし、じいさんのおとり作戦に対する期待感を考え発表する。	・一年目、二年目と比べて今年の作戦に対するじいさんの意気込みに目を向けさせる。	※大造じいさんのおとり作戦に対する期待をしている様子を見つけ、話し合うことができたか。【読むこと】【話すこと・聞くこと】
	7 (本時)	「なぜ、ただの鳥に対してしているような気がしなかったのか」を読み取ることができる。	なぜ、ただの鳥に対してしているような気がしなかったのか分かる表現を探し、発表する。	・ただの鳥に対してしているような気がしなかったきっかけは何かを考えることで、じいさんの心情の変化に目を向けさせる。	※はやぶさと戦う残雪の姿から、大造じいさんの心情が変化する様子を読み取り、話し合うことができたか。【読むこと】【話すこと・聞くこと】
	8	第四場面を読んで、残雪をがんの英雄と認め、堂々と戦おうと呼びかける大造じいさんの心情を読み取ることができる。	残雪に対する思いが分かる文から、爺さんの気持ちの変化について考える。	・残雪を見守るじいさんの晴れ晴れとした顔つきに着目させる。	※大造じいさんの残雪に対する思いを読み取り、話し合うことができたか。【読むこと】【話すこと・聞くこと】
第三次	9	大造じいさんの生き方や考え方についての感想を書く。	本文を読み返し、大造じいさんの気持ちの変化をふり返り、手紙を書く。	・それぞれの時間に書いてきた大造じいさんへの手紙を読み開始ながら、心情の変化を振り返らせる。	※大造じいさんの生き方や考え方について自分なりの感想を持つことができたか。【関心・意欲・態度】

## 6. 本時の指導 (7/9)

### (1) 目標

- ・ 大造じいさんは、なぜ、ただの鳥に対してしているような気がしなかったのかを読み取ることができる。【読むこと】
- ・ 大造じいさんと残雪の行動に目を向け、友達の考えと比べながら聞き、自分の考えを根拠を持って話すことができたか。【話すこと・聞くこと】

### (2) 展開

過程目標(分)	学習活動と内容 予想される子どもの反応	教師の働きかけ (○) と評価 (※)	資料
前時の学習をふり返ることができる。	1. 前時までのふり返りをする。	○学習の足跡を見ることで、前時までの流れを確認する。	模造紙

<p>(3) 本時のめあてをつかむことができる。</p> <p>(2) はっきりした声で音読することができる。(5)</p> <p>自分の考えを、根拠を持って話すことができたか。(28)</p> <p>大造じいさんの気持ちを考えながら手紙を書くことができる。(7)</p>	<p>2. 本時のめあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大造じいさんは、なぜ、「ただの鳥に対してしているような気がしなかった」のだろうか。</p> </div> <p>3. めあてに気をつけて本時の場面を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の場面 (P86L12～P88L5) を音読する。</li> </ul> <p>4. 書き込みをもとに、発表し合う。</p> <p>①ペアでの話し合い。(3分)</p> <p>②全体での話し合い。(25分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間もはやぶさもなかった。」というところから、がんを必死に助けようとする様子がわかる。</li> <li>・「救わねばならぬ仲間のすがただけだった。」というところから、仲間を必死に助けようとしている様子がわかる。</li> <li>・「敵にぶつかっていった。」というところからも、仲間を必死に助けようとしている様子がわかる。</li> <li>・「飛び散った」という言葉から、戦いが激しい様子がわかる。</li> <li>・「くれないにそめて、ぐったり」というところから、戦いが激しかったことがわかる。</li> <li>・「第二の敵が・・・首を持ち上げた。」ところから、傷ついているのに堂々としている。</li> <li>・「じいさんを正面からにらみつけた。」から、傷ついているのに堂々としている。</li> <li>・「いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようであった。」から、リーダーとして誇りを持っているようだったから。</li> <li>・「じたばたさわがなかった。」から、覚悟を決めたみたいだ。</li> <li>・「最期の時を感じて、・・・いるようでもあった。」から、自分の死を覚悟しているみたいだ。</li> </ul> <p>5. 大造じいさんに対する手紙を書き、発表する。</p>	<p>○残雪の行動に目を向けて読むように声をかける。</p> <p>○音読が早く終わった児童には、ワークシートを読み返し、つけ足しをさせる。</p> <p>○書き込みをしてきた中でも、ねらいにせまる部分を発表するように告げることで、話し合いの焦点を絞る。</p> <p>○話し合いの焦点を絞るために、前から区切りながら発表させる。</p> <p>○教師がおさえたい言葉が児童からでてこなかった時は、教師から投げかける。</p> <p>○友達の考えの良いところ、共感できるところは色を変えてワークシートへ記入するように伝える。</p> <p>※はやぶさと戦う残雪の姿から、大造じいさんの心情が変化する様子を読み取ることができる。【読むこと】</p> <p>※友達の考えと比べながら聞いたり、話したりすることができたか。【話すこと・聞くこと】</p> <p>○大造じいさんの気持ちの変化をおさえ書くように伝える。</p>
--	---	--

